

# 繭を使用した造形作品の制作と考察

大阪芸術大学 教養課程 講師 加藤 隆明

蚕繭を素材とした作品を制作し、その作業と展示の記録と考察をレポートした。

制作にあたり蚕繭の存在が美術でどのように表現材料として使われていたかの確認をした。確認作業をするにつれ工芸染色の部類に使われており、美術作品としてはほぼ見当たらなかった。ワークショップで繭のイメージの制作などは見られたが、視覚体験の作品としてはないようだ。

工芸染色の部類でも蚕繭から糸をつぐみそれを織る、という制作過程で利用されているのがほとんどであり、素材そのものの形を生かした造形物はないように思える。民俗的に枝に繭をさし豊作を祈るといふ「繭玉飾り」などがあるが、これは祈りの造形として作られている。

## 制作手順について

蚕繭を縦に半分になるようにカッターを入れ、最後の部分は切り落とさず残し内側が見えるように開く。中には蛹がある。市販の繭を購入して制作しているので、それは乾燥した状態にあり、それを取り除く。その作業に必要な量だけおこなう。

次に内側に輝きを異にした 2 種類の金粉を混ぜ、レジンとともに筆で繭の内側に塗る。レジンは紫外線で硬化する樹脂である。二液性の樹脂は硬化する時高熱を出すのでこの作業には適さない。

繭の内は表面とは異なり、蠟成分のようなものが表面を覆っており非常になめらかで硬質な面をしている。そのような状態に内空間の特異性を感じる。

加工された繭をホッチキスでお互いの縁を止める。その作業を続け、一定の面積が広がるまで付け足していく。

今回は幅 700mm程度高さ 1200mm 程度までにつなぎ合わせた。それを 2 点制作、向かい合わせるようにし鑑賞者の目の高さあたりで体験できるように吊り下げた。

## 展示について

金粉で塗られた繭の凹部分は双方とも外側に配置するよう、凸部分は双方とも内側に向き合うように配置した。展示会場ではその 2 点の作品は床置きフレーム(縦 2200mm×幅 1700mmで 30mm角の木材を白く塗った)にワイヤーで吊るすことにした。それをハの字に展示、ハの字の内側にも鑑賞者が入り体験できるようにした。印象として蚕繭の膜につつまれるような感覚になるように、である。

## 壁掛けの作品について

壁掛けの作品として 5 点展示した。繭の制作形態は床置き作品と同じであるが 縦 400mm横 400mm厚み 50mmのフレームの上に釣り針で固定し、その台座事壁に展

示した。本来壁に直接展示することが可能ではあるが、厚みのあるフレームを利用することで作品が及ぼす空間を限定し、鑑賞者の意識を集中させるために必要と感じたからだ。

作品の形式は、床置きの作品とほぼ同じであるが、繭を半分にカットしお互いを繋げていくと自ずと弧を描くように造形化する。そのような状態の作品として制作した。

## 作品の意図について

以前、ブタ真皮素材を制作の素材としてきた時から、素材が鑑賞者(人間)と密接にある物を選んできた。鑑賞者と素材と密な関係は、同質なもの同士による対等な関係を意識した。

たとえば、オブジェという絵画でも彫刻でもない新しい形態は、ダダイズム、シュールレアリズムが生み出した他者性を明確にした造形作品である。モダニズムの特性としてある自立性の探求により、日用品の再構築であるオブジェという新しい形態の芸術作品が生まれた。マルセル・デュシャンの「泉」は既存の便器を使用法とは異なる展示により「芸術作品とは」と問いかけることになる。日用品は人間の世界で制作され、使用し、消費される。これは日用品自体初めから人間の支配下に置かれるということになり、自立という概念において日用品は芸術作品にはなりえない。そこで使用不可能な状態や無関係の日用品同士を構成することにより、人間が支配する世界から逸脱し、自立可能になる。

私の作品は他者としての自立性ではなく、鑑賞者と近似値になることでの突き放され方、鑑賞者と作品の距離を重視したいと考えている。

豚真皮素材のきっかけは、じしんの手術体験からである。ブタの生体組織から作られた溶ける糸が、私の体内にあることから制作が始まった。これは、わたしの身体にある他者性である。しかしモダニズム作品のように他者性として突き放された距離にあるのではなく、私と双子のようにあることが重要であった。

その後、今回のように蚕繭を素材に選んだのも、私も蚕繭も有機的生命体であり、また蚕自身は家蚕つまり人間が作り出した人工生物という人間と同様の多様な世界を持っている素材ということである。

今回 12 月に大阪 Gekirin Gallery での展示タイトルは「—親和と嫌悪—Affinity and disgust」である。今回の展覧会だけではなく私のコンセプトに底流している。

※詳しくは制作レポートに記載したいと思います。